

ジャポニスム：響きあう未来

フランソワ・マジャンディ高校
ゴダラマ紗弥

ジャポニスム 2018 は日仏外交関係樹立 160 周年を記念する日仏文化イベントです。その一環として、私は高校の友人イネス、ジャドとともにパリ日本文化会館で開催された日仏高校生日本語プレゼンテーション発表会に参加する機会を得ました。そこで私たちは稲畑勝太郎を紹介し、演出・チームワーク賞を受賞しました。これで終わりだと思っていたのですが、今年になって国際交流基金から日本旅行への招待を受けました。その目的はフランスに帰国した後、自由なテーマでプレゼンテーションをおこなって日仏両国間の橋渡し役を担うことでした。つまり冒険はまだ終わっておらず、私たちは先生および大学生（バルトルディ高校卒業生）とその先生とともに、（Covid-19 のため、当初予定していた 2 週間ではなく）1 週間の日本旅行に出発することになりました。

観光について手短かに

私たちのグループの中で「日出る国」の訪問が初めてだったのは 1 人で、あとは皆一度日本に来たことがありました。私は日本に家族がいるため既に何度も訪日していますが、国内の様々な場所を改めて訪れ、未知のスポットを発見することは大きな喜びでした。さらに感染症の蔓延により観光客が非常に少なく、どの観光地でも人混みに煩わされることなく心穏やかにその美しさを堪能することができました。今回訪問したのは大阪、奈良、京都、広島合計 4 都市です。

大阪では巨大なグリコの看板と多くの店が立ち並ぶことで有名な道頓堀に行き、日本の女子高生のように「プリクラ」を撮影したり、お土産を買ったりしました。大阪では高校の訪問予定があったため（後述）、観光に割く時間はあまりありませんでした。

続いて、卒業生 5 名と一緒に奈良を訪れました。ここで訪問した東大寺は世界最大の木造建築で、その中に大仏が安置されています。大仏は啞然とするほどの大きさで、自分がとても小さくなったように感じました。鹿に囲まれながら奈良公園を散策した後は国宝館を訪問。恐ろしい形相の様々な像をつぶさに鑑賞することができました。

さらに日本旅行では外せない京都にも行きました。まず千本鳥居の伏見稲荷を訪れましたが、あまり混んでいなかったのもとても快適でした。ここでは願い事を書いてお祈りもしました。続いて訪れた金閣寺は素晴らしい庭園のあるとても美しい場所です。伝統的な一面で知られるここ京都で、私たちは茶の湯を体験し、自分で点てた抹茶を他の人にふるまったりしました。この時食べた和菓子はとても美味しかったです。

最後に悲しい歴史で有名な広島を訪れました。ここは私の母が暮らしていた街なので、私にとってたくさんの思い出が詰まった場所に戻ることは常に喜びです。まず原爆ドームのある平和記念公園を訪れ、その後はフェリーで宮島に渡って美しい神社を見学しました。



訪問先の中で印象に残った場所をひとつだけ挙げるのは難しいです。なぜなら訪れた場所
はすべてが独特で異なっており、言葉で言い尽くせない美しさがあるからです。そもそも私
たちはただ観光に来たわけではなく、選んだテーマに関するプレゼンテーションをするとい
う目的がありました。

驚きの出会い

私たちの選んだテーマ「伝統と外国文化の間の日本」に合わせ、国際交流基金は立命館大
学のミシェル・ワッセルマン特任教授との面談を京都で手配してくれました。教授は主に
「日仏交流史」や「西洋と東洋の演劇」に関する研究を行っておられます。日仏両国のつな
がり世界にも類例のない関係であることや、時代とともに様々な「ジャポニスム」が存在
したことについてご説明いただきました。また、この日の朝訪れた京都のアンスティチュ・
フランセの歴史についてもお話を伺いました。アンスティチュ・フランセではジュール・イ
ルマン総領事にお会いし、京都の街におけるアンスティチュ・フランセの位置付けや将来予
定されている様々な文化プロジェクトについてご説明いただきました。また私たちがプレゼ
ンテーションで取り上げた人物でもあり、今回の貴重な体験にもつながった稲畑勝太郎のひ
孫にあたる方との信じられない出会いもありました。このような方々の前でプレゼンテー
ションするのはとても緊張しましたが、この忘れられないひとときを大いに楽しみました。私
たちの研究に稲畑さんが感激されているのを見て心を打たれました。稲畑さんからは私たち
がプレゼンテーションを準備する時に使用したひいおじいさんの伝記をいただきました。



数多くの交流がありとても印象深い時間を過ごしましたが、交流の機会はこれだけではありませんでした。

高校

大阪の私立アサンプション国際高校で一日を過ごしました。午前には2年生の生徒たちと一緒に書道の授業に参加し、私も彼らに促されて多くの漢字を書きましたが、彼らも私のためにある言葉を書いてくれました。今回の旅行をととてもよく要約していると思うその言葉は「一期一会」です。文字通りではひとつの人生とひとつの出会いですが、すべての出会いは一度きりだからこれを大切に、という含意があります。私たちはこの機会に大きく異なる両国の文化や生活様式、高校生活、趣味などについて語り合い、本当に素晴らしいひとときを過ごしました。昼食は1年生と一緒に取りながら楽しく交流することができました。午後は私たちの故郷や高校、フランスの暮らしなどに関するプレゼンテーションを行い、他の生徒たちと一緒に教室の掃除をしました。みんなとても優しく、オープンかつ好奇心旺盛で、今も SNS を通じて連絡を取り合っています。



最後に多くの方々にお礼を申し上げたいと思います。まずはパリ日本文化会館（MCJP）。MCJP なくして私たちがプレゼンテーション発表会に参加することはなく、このような特別な体験もなかったでしょう。次に旅行の手配をしてくださった国際交流基金。テーマの選択についてのアドバイスを頂戴し、現地では歴史的建造物の歴史をご説明いただきました。また Covid-19 のせいで現地手配の大幅な変更を余儀なくされたにもかかわらず、旅行期間中ずっととても良くしていただきました。そしてもちろん、このプロジェクトに関し私たちを支え日本旅行を許可してくださった高校の日本語の先生や校長先生、コルマルの友人たちと先生、とても興味深いこのプロジェクトに共に全力で取り組んだ高校の友人たちにも感謝の意を示したいと思います。さらに現地で私たちのために時間を割いて、ご自身の仕事や日仏両国への熱い思いを語ってくれた方々にもお礼申し上げます。さらにここに書ききれなかった方々も含め、すべての皆様のおかげで貴重な体験をすることができました。この体験を忘れることは一生ないでしょうし、将来大人になってからも必ず役に立つだろうと思います。今回の旅行期間中、私の日仏二つのルーツの文化について多くのことを学べただけではな

く、自国の文化や自身を取り巻く世界への理解を深めるために他の文化に関心を持つことがいかに重要であるか、また文化の違いを理解し受け入れるためにどれほど交流が重要な意味を持つかを理解しました。誰でもその人のやり方で稲畑勝太郎になれるのです。